covers May 1955 operations

鮪 漁 業

TUNA FISHING

No. 24, 1955

LIBRARY POFI FISH & WILDLIFE SERVICE

ビニール製サンマ擬似餌にかゝつた鮫（ヒラシガラ）
（ベンガル灣にて揚繩待期中の相模丸舷側より）

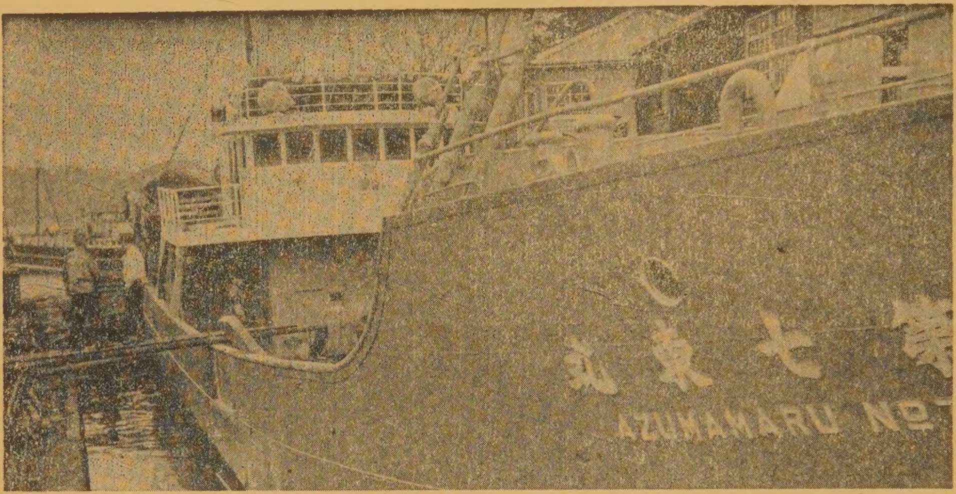
The Investigative Society of Tuna Fishery, Misaki

鮪 漁 業 研 究 會

大型漁船の御用命を待つ！

下田船渠株式会社設備概要

乾　船　渠　500 屯 ー 1 基
引 揚 船 架　500 屯 ー 1 基
（最新算盤式完成）
同　　　上　300 屯 ー 3 基
其の他鋼木造船造修設備一式



下田船渠株式会社で修理中の大洋漁業所属まぐろ船第七東丸（310 噸）

下田船渠株式会社

取締役社長　沢村久右衛門
常務取締役　沢 村 正 三
静岡県下田港　電話伊豆下田 9・10・53
東京事務所　港區芝田村町4の13　電話芝（43）2539

輸出ヴイタミン油・罐詰・冷凍魚・遠洋漁業・各種魚類肝臟買付

湘南水産工業株式会社

神奈川県三浦市三崎町二町谷 3506 の 4
電話三浦 370 番・362 番

—— 目　　次 ——

鮪漁船紹介　　第18富久丸　大島根丸

鮪　漁　場　圖　（昭和30年5月操業）

三崎、他四港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察
（昭和30年5月）…… 1

1　調査の概要 …… 1

2　漁況の概要 …… 1

3　各漁場の漁況 …… 1

4　漁況の予報 ……13

5　参考資料 ……14

鮪類標識放流について……15

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表（昭和30年5月操業分）別表 1 ……16

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和30年5月操業分）別表 2 ……20

鮪類水揚價格表（三崎）昭和30年10月 ……28

標識メカジキの再捕について……29

標識カツオ（5封度約600匁）189封度（約22貫800匁の
キハダマグロの胃中より發見……30

強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶對経験と信用のあるメーカー

クレモナ
万　　漁

國産製麻株式会社

本　社　東京都中央區京橋三丁目四番地　電話東京（28）6605・6606番

工　場　栃木県鹿沼市朝日町 電話（鹿沼）242・243番　同上野町 電話（鹿沼）377番

第18 富 久 丸

船　主　近藤久次郎（焼津市）

造船所　株式会社　金指造船所

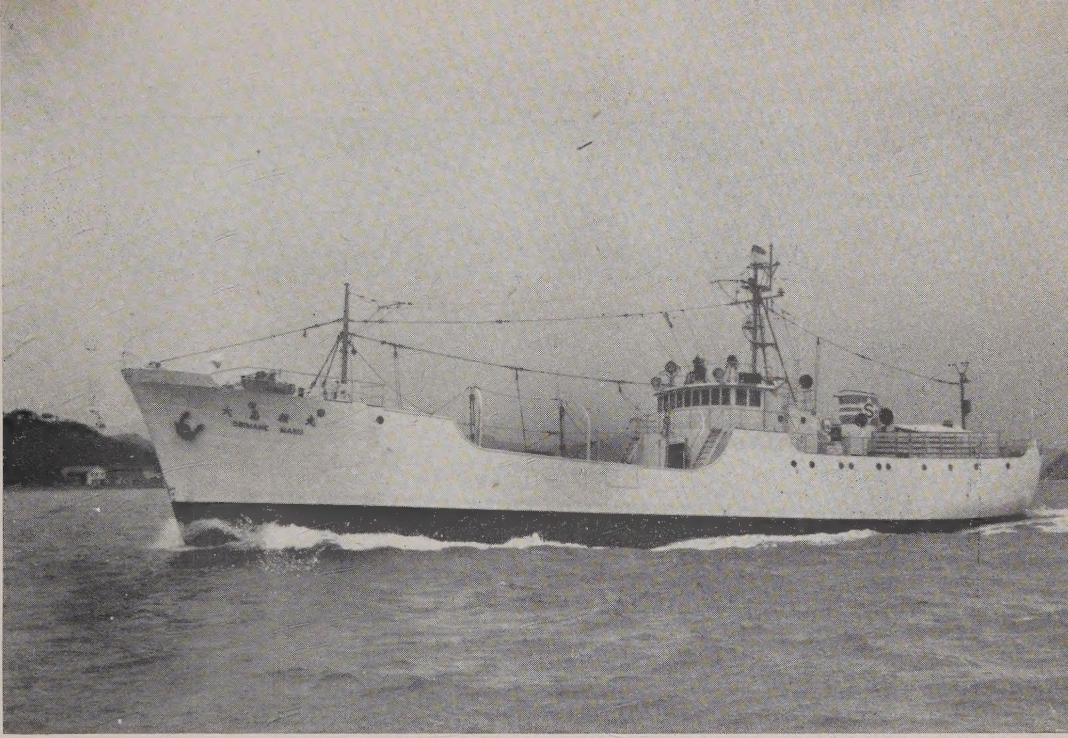
主要寸法	長31.50m×幅6.20m×深3.15m
總屯數	179.76屯
魚艙容積	65m³
燃料油艙	62m³
速力	最大10.5節
主機	（新潟鉄工所）デーゼル500HP　1基
補機	デーゼル80HP　1基
無線	150W 75W　各1基
冷凍裝置	日新興業設計施工 フレオン 12 20HP　1基
ローラン．方向探知機	各1式
竣工	昭和30年5月10日

漁船の冷凍裝置に定評ある

日新興業株式會社

本　　社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）　TEL．北浜（23）1334．2351
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）　TEL．銀座（57）4385．6810
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL．清水 2203
三崎連絡所　三浦市三崎町西浜46　海洋電機工作所　TEL．三崎 443

施工船名
オ18富久丸
海鷹丸
蒼鷹丸
土佐海援丸
オ8清勝丸
（其の他
約貳百隻）



大 島 根 丸

船　主　島　根　縣

造船所　三菱造船株式会社　下關造船所

主要寸法	長 41.00m × 幅 7.50m × 深 3.80m
總屯数	372.1 屯
魚艙容積	273.92m³
燃料油艙	157.00m³
速力	最大 12.14 節
主機	(新潟鉄工所) デーゼル 650HP 1基
補機	デーゼル 100HP 2基
無線	250W 50W 各1基
冷凍装置	フレオン 12 高速多氣筒 2基
レーダー. 音響測深機. 方向探知機	各1式
竣工	昭和 30 年 5 月 10 日

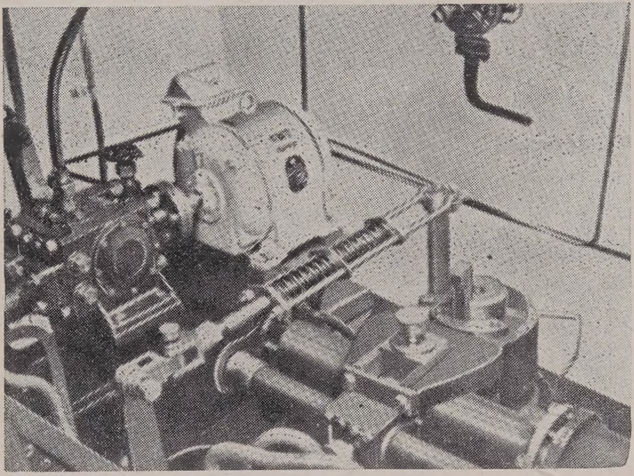
多年の経験・最高の技術を誇る

株式会社 **新潟鐵工所**

本　社　東京都千代田区九段一丁目六番地　電話 (33) 8391. 8491

支　社　大阪. 新潟　　營業所　名古屋. 札幌. 下關

三菱小型ジャネー式
電動油圧舵取装置



1馬力・2馬力
3馬力・5馬力
を量産中です。

三菱造船株式會社

本社　東京都港区芝琴平町一番地
電話 芝(43)5111・6111(代表)
營業所　神戸・大阪・福岡
工場　長崎造船所・下關造船所
廣島造船所・廣島精機製作所

營業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装備・補修一式

七洋電氣株式会社

(ナナヨウデンキ)

取締役社長　滿石英一
取締役　橋本清
取締役　長田孝

本社　東京都目黒区上目黒3丁目1869番地
電話澁谷(46)8070・0606番

三崎他四港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和30年5月）

三崎　　神奈川県水産試験場　野村、齋藤、下里、中込、石渡、藤平
東京、焼津　南海区水産研究所

1 調査の概要

昭和30年5月分として調査せる鮪延縄船数は三崎39，東京63，焼津74，合計176で4月より著しく少い。4月に比べて赤道以南の西経漁場が著しく増え、南洋南部と印度洋が減少し、伊豆東方海区と南海々區が減少して西部太平洋亜熱帯海区が増加している。体長測定をした船数は157で4月と大差ない。調査海区数は17で4月より1區少いだけであるが新しく調査された海區（タヒチ海区）が1区増えている。

2 漁況の概要

ハワイ南西海区5°N以南のキハダの釣獲率は春季の特徴を示して高率であり、南洋南部170°E以東の5°N以南でも高率である。サモア海区、ソロモン海区北東部も高率を示している。中、西部印度洋方面が西よりに高率である事は前号でも記述したが5月は70°E線で明瞭に差が見られ以西は低く、以東は高率である。

中、西部印度洋方面のメバチは赤道の南北で明瞭に釣獲率に差があり、以北の方が高率である。

北部太平洋方面のビンナガは完全に消滅した。南洋南部5°N以南はどの海区（経度別）も5月は増加している。サモア海区は4°—5°Sで明瞭に分布線が見られ、以南の方が著しく高い。中、西部印度洋方面は60°—70°Eが最も高率で、その東西両側にゆくに従つて低率であるが2°Nで明瞭に差が見られ、以北は全く釣れていない。

中西太平洋のクロカワは猶北上中である。中、西部印度洋方面は5月は北よりに漸高となつている。

西部太平洋亜熱帯海区に形成されているマカジキ漁場は伊豆東方海区にまでのび始めた。メカジキの釣獲率は既に著しく低下している。

3 各漁場の漁況

A　ハワイ南西海区

調査隻數は5°N以北3, 以南4で、操業海域は11°N以南170°W以西に偏つている。以北の水温は4月より稍高い。

（キ　ハ　ダ）

10°N附近の釣獲率は0.12で周年低率を続けているが8°Nにまでわたると0.66, 0.73と高くなる。5°N以南は3.16でかなり高いが、過去3年間南洋南部170°E以東と共に春季高率となつているので6,7月にかけて更に高率となるかもしれない。5°N以北の体長組成は中型59.5%、大型25.5%で4月より更に型が大きくなつている。以南は中型が63.3%を占め以北より稍型が小さいが29年5月の主要群のみが見られ小さな群は見られていず、年間に差が見られる。

（メ　バ　チ）

2,3月の3.0から4月に2.53と低下した5°N以北の釣獲率は5月には2.66と稍上昇して居り、冬—春季の高率期間に2回増減を繰り返す。28,29年の變化は周期變化であると推察される。

5°N以北の体長組成は111cmから170cmの間は各階（10cm）10—17%で凹凸が殆んど見られなくなつた。全体的には夏季、型の小さくなる29年の變化をたどつている様に思われる。以南は141—160cmが47.7%を占め131—140cmは4.7%で17.2%を占めた29年5月と多少型を異にしている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

5°N以南操業の4隻の内、1°S—2°N, 170°—169°W操業の1隻が1.56,1°S—2°N, 180°—179°Wの1隻が0.38の釣獲率を示して居るが、他2隻は同海域を含んだ2°S—4°N, 179°—174°Wで操業して居るにも拘らず全く釣れていない。此の間の関係は不明である。

（ク　ロ　カ　ワ）

3月から著しく上昇し始めた5°N以北の釣獲率は5月には更に上昇し、北上回游を続けている事がうかがえる。北南の0.25という率は27,29年の上昇期に一旦低下した6月と同率である。体長組成は5°N以北は連続的で1月以降次第に型は大きくなつているが29年5,6月は182.1cmが178.0cm, 177.4cmと平均体長が示す様に4月以降型は小さくなつていて30年と異つている。以南は29年同様二個のモードが見られるが、各階の頻度（占める割合）の差は極めて小さい（山が低く擴がつている）。

B　0°—15°S, 160°—140°W の海域、タヒチ海区、サモア海区

調査隻数は 0°—15°S, 160°—140°W の海区 1, タヒチ海区 1, サモア海区 14 であるが、サモア海区の1隻は第一者の海区でも操業して居り分離したので第一者は実際には2隻である。タヒチ海區は始めて調査されたところである。操業海域はサモア海区は 6°S 以北に偏しているが 0°—15°S, 160°—140°W の海区は北側で1隻、南端で1隻、又タヒチ海區は北端で 0°—15°S, 160°—140°W の海区にまたいでいる。

(キ　ハ　ダ)

サモア海区の釣獲率は 4.04, タヒチ海区は 1.63 であり 0°—15°S, 160°—140°W の海区は北側の 1°—7°S, 159°—144°W 操業の船は 3.37, 南端の 14°S, 150°—143°W の船は 1.95 であり 0°—7°S 附近と 15°S 附近の間に著しい差が見られる。此の南北間の差は3月にも見られているが2月は此の逆となつているので、此れら海区間に統一傾向があるのではないかと推察される。サモア海区の率は1月 (0.85) までの低率から5月 (4.04) まで次第に上昇して來た。此のキハダが產卵回游魚か否かは考察を要する。体長組成の東西関係は赤道以北と同様西側に型が小さくなつている。

(メ　バ　チ)

160°—140°W では 1°—7°S 0.81, 14°S 0.47, 14°—16°S 0.23 の釣獲率で南よりに低くなつているがサモア海区 2°N—6°S, 179°E—161°W は 0.40 で此の間の関連は不明である。

サモア海区は1月 (0.0) から4月 (0.50) まで漸増して來たが5月は 0.40 と低くなつている。0°—15°S, 160°—140°W の海区は3月から5月へと高くなつている。

体長組成はキハダ同様西よりに型は小さい。

(ビ　ン　ナ　ガ)

0°—15°S, 160°—140°W の海区の釣獲率は南北の間に著しい差がある (2.27, 3.69) が 2.53 を示し、タヒチ海区は 2.39 を示している。サモア海区は 1.21 で低率であるが各船間の差が大きい。此れは 4°—5°S に分布線があるためと考えられる。(表1)

サモア海区は 11, 1, 2, 3 月 1.98 と規則的上昇低下をたどつて來たが4月は 0.29 に激減し5月は再び 1.21 まで激増して居る。0°—15°S, 160°—140°W の海区は3月から5月へと著しく上昇している。サモア海区の体長組成はソロモン海区と非常に似ているが 91—100cm が著しく多く、ソロモン海区より大きいものと小さいものとの差が小さい (分散が小)。

Table 1　サモア海区のビンナガの南北分布　(昭 30.5)

区分	船名	操業海域	水温	流向	操業回数	鈎数	尾数 鈎獲率
4°S以北	A	1°—3°S 174°—171°W	27.2 27.8	W WSW	20	37,600	233 0.76
	B	1°—2°S 177°—172°W	27.1 27.6		12	19,032	186 0.98
	C	1°—2°S 169°—166°W	26.8 27.2		11	22,550	114 0.51
4°S以南	A	4(2)°—5°S 175°—173°W	27.9 28.6	WSW	6	11,400	251 2.20
	B	4°—7(23)°S 179°—174°W	28.4 28.8		17	26,104	1329 5.09
	C	4°—5°S 179°—163°W	27.1 28.8		15	30,750	1087 3.53

(クロカワ)

0°—15°S, 160°—140°W の海区は北側操業の船は 0.59, 南端操業の船は 0.96 であり、タヒチ海区は 1.33 の鈎獲率である。サモア海区の 0.27 は操業船の多いという事に関係があるとしても北よりに低率である傾向はうかゞえる。此の関係はソロモン、ニユーカレドニヤ海区にも見られ、同海区では北側は南側より率の高さは低いが高率期間の長さは長く、南側は北側に比して此の逆となつている。サモア海區の体長組成は小型 32.8%、中型 37.5% を占め、ハワイ南西海區と比較して南よりに型が小さくなつている。

C　舊南洋庁沿海北部(南洋北部)、舊南洋庁沿海南部(南洋南部)

南洋北部は 170°E 以東で 2 隻調査されているが操業海域は 9°—11°N, 174°—180°E で、南洋南部 170°E 以東 5°N 以北と略同海域である。南洋南部は 40 隻で、各海區 4 月と大差ない隻数であるが南洋北部は少くなつている。経度 10° 毎の主なる魚種の漁況は第 2 表に示す。

Table 2　南洋南部各海區の漁況　(昭 30.5)

区分	操業区域	調査隻数	操業回数	鈎数		キハダ	メバチ	クロカワ
130°—140° E	0°—7°N 130°—143°E	4	55	69,779	尾数 鈎獲率	2554 3.66	303 0.43	209 0.30
140°—150° E	2°S—7°N 142°—151°E	11	184	250,669		6783 2.71	1734 0.69	1058 0.42
150°—160° E	2°—10°N 150°—161°E	10	145	205,527		4178 2.03	2024 0.98	1138 0.55
160°—170° E	3°S—10°N 157°—175°E	8	164	243,795		4668 1.91	1917 0.79	1426 0.58
170°—180° E	1°—11°N 169°—180°E	7	135	219,665		3707 1.69	2449 1.11	1174 0.53

（キ　ハ　ダ）

釣獲率は周知の如く東よりに低くなつている。

130°—140°E の海區の釣獲率は 4 月の 5°N 以北 1.65, 以南 2.20 に比し、以北 2.15 以南 4.75 と 5 月は著しく上昇している。

140°—150°E の海区も 4 月より上昇している。5°N 以北は 3 月以降上昇の過程にあると考えられるが以南の上昇の意味は不明である。しかし両海区共 28, 29 年と同様の秋季と春季高率を示す年 2 周期變化をたどつている事はうかゞえる。

150°—160°E の海区は 1 ケ月おくれた變北をたどつて居り 5°N 以北は 4 月まで上昇して 5 月に低下し、以南は 2 月以降低下を続けている。 しかし 29 年に見られた初夏から晩夏にかけての増減をたどる可能性は 30 年に於いては低い。

160°—170°E の海区は 5°N 以北は僅かに上昇を続けて居り、以南は 3, 4 月より顯著に上昇して居る。

170°—180°E の海区の 5°N 以北は低下を続けて居り 0.30, 以南は 4 月より低下しているが著しく高率で 3.25, 後者は春季高率でハワイ南西海區 5°N 以南と略同傾向と考えられる。

南洋北部 170°E 以東は 0.18 で南洋南部 5°N 以北と略同率で 2 月以降低率を續けている（4 月は 0.56 で稍高くなつている）。

体長組成は中型の 121—130cm のモードは上記各海区共通であるが小型から若年魚にかけて見られるモードは船によつて差がある。 しかし 91—100cm に見られるのが多く 140°—150°E の海区は 10/11, 全海區を通じても 17/35 を占め殘りの船も此の前後に見られている。経度間の顯著な差は見られない。

170°E 以西の海区は 4 月と略同形で中型のモードが減少し、若年魚から小型にかけてのモードが増加している。30 年より若年魚に比して小型の多い 28, 29 年とは組成の形を異にするが上記の變化は 28, 29 年にも見られる。しかし 28, 29 年は 6 月に致つて若年魚は激減し、小、中型で占められる形となつている。

以東も復モードとなつているが、此れは 4 月の 121—130cm のモードのみで占められる組成と著しい相異である。

（メ　バ　チ）

130°—140°E の海区の 5°N 以北の釣獲率は 10 月 (2.15) 以降 3 月 (1.00) まで低下の一途をたどつて來 4 月はその低下が止まつたかに見えたが 5 月は再び著しく低下して 0.45 を示している。6, 7 月頃からは上昇に轉ずると思われる。以南は 2 月 (0.60) 以降 5 月 (0.40) まで僅かに漸減している。

140°—150°E の海区の 5°N 以北は 1 月 (1.55) 以降 5 月 (0.65) まで低下を続けている。2.15, 1.80 の高率を示す 28, 29 年の春季は上昇過程と思われるので、此の両年に比べると 30 年の此の變化は逆變化の様に思われる。以南は 4 月と略同率で 28 29 年同様高率期 (釣獲率 0.5—1.0) にあると考えられる。

150°—160°E の海区の 5°N 以北は 2,3,4 月と僅かな低下の後 5 月は 2 月と略同率にまで上昇したがその變化は著しいものでなく 28, 29 年以降の 1.0—1.5 の釣獲率を續けている。以南は 2 月 (0.50) から 5 月 (0.90) まで上昇をたどつて居る。晩夏から初冬にかけて高率期がある様に思われるが 28, 29 両年とも調査されていないので不明である。

160°—170°E の海区は 5°N 以北は上昇、以南は低下している。

170°—180°E の海区の 5°N 以北は春季の高率期の最後と考へられ 2 月 (2.20) から 3 月 (1.15) へと激減、4 月 (2.00) へと上昇した後 5 月 (1.45) は再び低下している。南洋北部 170°—180°E の海区も春季高率の周期變化をたどり 5 月は 2.00 で 2 月の 2.85 からの漸減を続けている。南洋南部 170°—180°E の 5°N 以南の海区は 4 月の 0.35 から 5 月の 0.70 へと上昇して居り、夏季の高率に向かつて上昇し始めた様に考えられる。

5°N 以北と以南との釣獲率の差は 130°—150°E の 2 海区では殆んど見られず 150°—160°E の海區は 0.25 の差で僅かに見られるが 160°—180°E の 2 海区では著しい差が見られる。

170°E 以西の体長組成は中型 45.6%、小型 26.6% で 28, 29 年と全く同様の變化を示し 3, 4, 5 月と僅かに型が小さくなつている。170°E 以東も以西の變化に似ているが 3 月より 121—130cm が減少して 111—120cm が増え明瞭な 2 つのモードが形成されている。

(ビ　ン　ナ　ガ)

4 月は 170°—180°E の海区で非常な高い釣獲率を示したが 5 月は 140°E 以東はどの海区も 5°N 以南で 0.10—0.15 (此の海区としては稍高率) を示している。140°—150°E の 5°N 以南の海区は 2 月以降漸増の過程にあるが 150°—170°E の海區は 4 月 (0.03, 0.01) から 5 月 (0.17, 0.15) へと急に上昇している。ハワイ南西海区 5°N 以南が高率で初夏の高率期に向かつて上昇の過程にあると思われるところから 5 月の此の現象は注目される。

体長組成は 4 月と全く同形である。

(ク　ロ　カ　ワ)

170°E 以西の海区の釣獲率は 1—3 月と上昇して來たが 4 月は僅かに上昇、5 月は 4 月と同率で上昇變化は停滯している様に見られる。6 月以降多少の減増は見られるかもしれないが 9 月頃迄高率が續くのではないかと推察される。

170°E 以東の海區は極めて緩やかな上昇をたどり 29 年と略同變化過程にある。

体長組成は 170°E 以西は 4 月と同形で稍型が小さくなつて居り 28, 29 年と同変化である。以東は 4 月までの 161—170cm に見られた單モードが 5 月は 151—160cm, 171—180cm に見られる復モードに変化している。

D ソロモン海区

調査隻數は 5, 全船 1°—7°S, 170°—180°E の海域で操業している。東方に偏しているのでサモア海区と比較検討する。

(キハダ)

170°E 以東の 0°—5°S, 5°—10°S の両海區とも 4 月の高い釣獲率 (3.20, 2.80) は 5 月は更に高くなり (3.80, 3.10)、5°—10°S の 2—5 月の上昇変化、及びサモア海区の 1 月以降の上昇から見て 5 月は上昇過程にあると判断される。

体長組成は前号に推察した様に 4 月より型は大きくなつている。しかし 4 月に出現した 91—100cm のモードが著しく大きくなつているので平均体長は僅か 0.2cm の增で殆んど変化はない。此の若年魚のモードは 28, 29 年にも現われている。

(メバチ)

0°—5°S, 5°—10°S の両海区とも釣獲率は 4, 5 月と僅かに低下している。両海区とも 0.2—0.3 で極めて低い。体長組成は 4 月同様復モードであるが 4 月に 101—110cm と 131—140cm に見られたモードは 5 月には 111—120cm と 141—150cm に移つている。

(ビンナガ)

0°—5°S, 5°—10°S の両海区とも 3, 4, 5 月と上昇して來たが率の高さ、上昇の程度 (勾配) 共に後者海區の方が高く、前者 1.10, 後者 3.00 を示している。晩春から夏季にかけての高率は期間の長さに差こそあれ両海区とも 29 年に見られて居り、特に後者海區はしばらく高率が続くのではないかと思われる。体長組成は 81—90cm が著しく増え 1 月と同形で 2, 4 月と形を異にしている。

(クロカワ)

0°—5°S の海區は 5 月も高い釣獲率 (0.47) であるが 4 月より僅かに低下している。しかし 5°—10°S の海區は 2, 3 月と低下したが 4 月は上昇し 5 月は更に上昇し 3 月の 0.47 から 0.57 に達している。29 年春季はどの海區も低下の過程にあり 30 年の

5°—10°S の海區の変化は考慮を要する。体長組成は 28, 29 年と同様型は 3, 4 月より大きくなつている。

E 東、中、西部印度洋方面

アンダマン, ニコバル海区　セイロン海區　中部以度洋海区　アラビヤ海区
西部印度洋海区

アンダマン, ニコバル海区は丁度 1 年ぶりに調査され、しかも調査点は僅か 4 点なので変化については明瞭ではない。アンダマン, ニコバル海区の操業海域は 2 隻の内 1 隻がスマトラ西岸沿海にかけて両船とも 9°N 以南の南側に偏している。セイロン海区は 80°E 以東で 3, 以西 1, 両側にかけて 1 隻が操業しているが共に 1°—11°N 特に 3°—9°N にわたつているのに對し、アラビヤ海區は 1°S—1°N の赤道附近で操業している。赤道以南では両海區共 0°—4°S の海域で操業しているが、西部印度洋海區は 57°—72°E に散在して居り、中部印度洋海区は 67°—78°E で西側に偏している。

(キ　ハ　ダ)

アンダマン, ニコバル海區の 29 年の釣獲率は 3, 4, 5 月と激減し 5 月は 3.09 を示していたが 30 年 5 月は 4.81 で著しく高い。低下の過程にあるのではないかと考えられたセイロン海区、中部印度洋海区、西部印度洋海区の釣獲率はセイロン海区で略同率、中部印度洋海区は 3 月の 4.65 の低率から 4, 5 月と上昇して 8.70 となり、西部印度洋海区は 1, 3, 4 月と低下して 11.05 となつたが 5 月は 14.60 と急激に上昇し更にアラビヤ海区は 2 (10.75)、3, 5 (12.80) 月と上昇して居り、前号に記した冬高夏低說は更に検討を續ける必要がある。釣獲率の経度による漁況差は著しく、赤道以南 9°S までは緯度的には略同率であるが経度的には西よりに著しく高くなつている (表 3)。

Table 3　印度洋のキハダの漁況 (昭 30.5)

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N			5.10	7.00	4.81
2°N–0°	10.50	19.65			
0°–2°S	18.65	12.20	7.30		
2°S–9°S	17.50	12.55			

4 月まで型の大きくなつて來た体長組成は赤道以北のセイロン海区は 4 月より、アラビヤ海区は 3 月より型は大きく 131—140cm にモードがあり大型が 33.3%、21.6% を占め、中部印度洋海区は 4 月より型は小さく、西部印度洋海區は 4 月と同形であるが、前者は中

型75.2%、大型16.8%に対し後者は50.7,46.1%でその間に著しい差が見られる。

（メ　バ　チ）

Table 4　印度洋のメバチの漁況（昭30.5）

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N			1.20	1.00	0.63
2°N–0°	2.00	1.00			
0°–2°S	0.35	0.55	0.45		
2°S–9°S	0.85	0.35			

釣獲率の變化は海區によつて種々である。アンダマン，ニコバル海区は0.63で29年5月の1.05より著しく低い。29年春季は3,4月と低下し5月に僅かに上昇している。セイロン海區も同様4,5月と僅かに上昇している。アラビヤ海区は2,3月と僅かに上昇したが5月は3月の0.98から1.58と著しく上昇している。此れに對し中部印度洋海区は3,4,5月と低下し、西部印度洋海区1,2月と低下、3,4月と上昇し5月に再び低下している。

アンダマン，ニコバル海区の29年5月は1.05である事は前記したが表4に示す緯経度別漁況から判斷しても30年5月の0.63の低率は注目される。他海區では明瞭に赤道以北と以南で漁況に差が見られる。

体長組成も叉各海区で非常に異なる。モードは中部印度洋海区のみ單モードで121—130cmに、他は復モードでセイロン海区は131—140cmと81—90cm，アラビヤ海区は121—130cmと101—110cm，西部印度洋海区は101—110cmと151—160cmにあり、叉占める割合も各々異る。

（ビ　ン　ナ　ガ）

Table 5　印度洋のビンナガの漁況（昭30.5）

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N			0.03	0.00	0.03
2°N–0°	0.60	1.28			
0°–2°S	0.68	1.40	0.88		
2°S–9°S	1.40	1.88			

各海域の釣獲率は4月と著しく異つている。4月に見られた70°Eによる東西間の相異は以東の殆んどの海区が調査されていないので顯著には解らない。

赤道以北が著しく低率である事は周知のところであるが5月の漁況をみると西部印度洋方面では2°N以南は高率を示し、收斂線（北赤道流と反流域）が2°N以北の此の附近にある事が推察される。叉2°N以南に於いて緯度的には南よりに高率であり、経度的には60°—70°Eが最も高率でその東西は此の海区より低くなつている。

變化も中部印度洋海区と西部印度洋海区は非常に異り、前者は前号にも詳述した様

に29年は春高秋低であつたが30年は1月に既に高率となり3月は低下したが中程度の率で4,5月と続いているのに対し、後者は1,2,3月と低下し4月は1月と同率にまで激増して5月は此の高率を續けている。更に檢討を要す°

体長組成は中、西、両印度洋海区は 101—110cm にモードを持ち中型33.4,23.1%大型66.7,75.9%で稍西よりに型が大きいが殆んど同形である。それに対しセイロン海区は91—100cm にモードが見られ型は赤道以南より小さくなつている。セイロン海區、中部印度洋海区は4月と全く同形である。

(クロカワ)

前号に於いて各海區の釣獲率の概略變化を記述したが5月の變化はその傾向をたどらず更に檢討を要する事を示している。

Table 6　印度洋のクロカワの漁況（昭30.5）

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N			0.41	0.41	0.53
2°N–0°	0.61	0.36			
0°–2°S	0.09	0.29	0.31		
2°S–9°S	0.18	0.11			

アンダマン，ニコバル海區の29年春季は3,4,5月と上昇しているが30年5月は29年の3月と同率である。セイロン海区は1月より僅かに低率であつた4月（0.52）より5月は0.42と低下し、中及び西部印度洋海區は2,3月から4月へと上昇したが5月は共に著しく低下し、アンダマン，ニコバル海区、セイロン海區、中部印度洋海區は29年春季（高率期）より著しく低率である。アラビヤ海区は4月に調査されなかつたので不明であるが2,3,5月と上昇している

緯、経度別の漁況（表6）は60°E以東では南よりに低率となつているが50°—60°Eの海区では0°—2°Sが0.09で0°—2°Nが0.61で著しい差が見られる。2°—9°Sは0.18と0°—2°Sより僅かに高くなつているがその差は小さい。

体長組成はセイロン海区、アラビヤ海區は181—190cmと211—220cmにモードがあり同形で、中部印度洋海区は171—180cmと221—230cm，西部印度洋海区は171—180cmと231—240cmに見られる。赤道以北と以南で著しく異る。

(その他のカジキ類)

シロカワの釣獲率はセイロン海区0.15，アンダマン，ニコバル海区0.24，マカジキは0.20，0.11で、東西間の高低は逆になつているが両漁種共に此の2海区のみに見られ他海区では殆んど釣られていず、4月と同様である。

セイロン海区のシロカワは4,5月と上昇し29年と多少異るが、マカジキは4,5月と著しく低下し29年と同傾向であるが、率の高さは著しく異り30年4月は29年5月

と同率で30年5月は29年5月と6月の中間である。

シロカワの体長組成は中、西印度洋方面のアラビヤ海区以外の3海区は191—200cmにモードがあり、略同形である。マカジキは171—180cmにあり4海区とも同形である。

F 北部太平洋方面

伊豆東方海区　南海々区

調査隻數は伊豆東方海区 8, 南海々区4で前者の 7隻は西端 (30°—34°N, 140°—142°E) に偏している。 又此の海区はメカ縄船が2隻みられ著しい高率を示している。漁獲魚種及びその釣獲率は船によつて差が見られる。

(ビ　ン　ナ　ガ)

伊豆東方海区の釣獲率は3月 (3.85) の高率から4月 (2.10) 5月と激減し全く釣れなくなつた (0.06)。南海々区は2, 3月の高率 (3.45, 3.15) から4月に既に0.22と激減したが5月は0.02で全くつれなくなつた。詳細は次章を参照。

(マ　カ　ジ　キ)

マカジキの釣獲率は両海區とも29年と同様高くなつている。 南海々区より伊豆東方海区の方が高いが、前者は2, 3, 4月と上昇して來て5月は4月と同率で西部太平洋亜熱帶海區の變化に似ている。後者は4月の低率 (0.05) から5月は激増して0.47となつて居り29年の變化からも更に上昇する事がうかゞえる。西部太平洋亜熱帶海區に形成されている漁場は更に北へとのびている事を示している。

体長組成は西部太平洋亜熱帶海区 170°E 以西は151—160cmと111—120cmにモードがあるのに対し、以東は 131—140cm と171—180cm に、伊豆東方海区は161—170cmと131—140cmにあり、著しく形を異にしている。

(メ　カ　ジ　キ)

釣獲率は両海区とも3, 4月と殆んど同率と思われる程度の上昇の後5月は著しく上昇している。南海々区に於いては29年と同様の上昇傾向であるが、伊豆東方海区では29年は6月以降に著しい上昇が見られて居り30年5月は著しく異つている。しかし各船の漁況を見ると2隻のメカ縄船が著しい高率 (1.05, 0.46) を示して居り、此れを除くと0.07となり4月より低下している。

G 台灣東海、西部太平洋亜熱帶海区

経度10°毎の操業狀況及び漁況は第7表に示す。 操業海域は22°N, 125°E, 23°N,

129°E, 24°N, 131°E, 29°N, 138°E に著しく集結し、更に東方にまで散在している。漁況はキハダ、メバチは 150°E で、メカジキは 140°E で明瞭に境され、キハダ 150°E メバチ 160°E, マカジキ、メカジキ 150°E の 4 月と比較して著しく異つている。

（キ　　ハ　　ダ）

台湾東海は最も高く 130°E を越えた東側は著しく低くなり 150°E を越えると更に低下して全く釣れなくなつている。

Table 7　20°—30°N, 120°—180°E の海区の経度（10°）別漁況（昭 30.5）

区分	操業海域	調査隻数	操業回数	鈎数		キハダ	メバチ	ビンナガ	マカジキ	メカジキ
120°—130°E	20°—25°N 124°—130°E	25	365	360,335	尾数	3124	186	28	738	168
					釣獲率	0.87	0.05	0.01	0.20	0.05
130°—140°E	20°—30°N 130°—140°E	41	447	478,196		1472	275	132	1903	299
						0.31	0.06	0.03	0.40	0.06
140°—150°E	22°—31°N 140°—150°E	9	128	147,946		574	94	21	573	350
						0.39	0.06	0.01	0.39	0.24
150°—160°E	26°—29°N 152°—162°E	2	37	69,320		17	232		197	278
						0.02	0.33		0.28	0.40
170°—180°E	26°—28°N 173°—176°E	1	19	30,400		6	643	2	95	40
						0.02	2.12	0.01	0.31	0.13

台灣東海に於ては 5 月は 4 月より低下し 29 年と同變化である。西部太平洋亜熱帯海区 170°E 以西も 4 月より上昇して居り 28, 29 年と同様夏季から秋季にかけての高率に向かつての周期変化をたどつている様であるが 4 月で記述した如く 5 月も北部と南部で著しい漁況の差がみられる。

台灣東海の体長組成は 121—130cm (37.3%) と 91—100cm (13.3%) にモードがみられ 131—140cm (24.8%) と 101—110cm (19.0%) にモードのみられる西部太平洋亜熱帯海区 170°E 以西より型は小さい。しかし 130°—140°E は101—110cm (13.6%) より 131—140cm (30.4%) のモードの方が大きく 140°—150°E は 101—110cm 32.5%、131—140cm 10.1% で逆関係である。全体的には、型の小さい方のモードは 29 年 12 月から 30 年 3 月まで大きくなつて 4, 5 月と小さくなり、中型のモードは 3 月まで小さくなり 4, 5 月と次第に大きくなつている。

（メ　　バ　　チ）

メバチの釣獲率は 150°E 以西は極めて低く 150°E 以東は高くなつているが 170°—180°E は 2.12 で著しく高く 29 年 10 月とは略同率であるが 30 年 4 月に比べると激増している。以西の 5 月は 4 月より低く 28, 29 年と略同様の低下現象の過程にある。体長組成は台湾東海も 170°E 以西海区も大きなモードは 101—110cm にみられるが小さなモードは前者は 121—130cm, 後者は 141—150cm にみられ差がみられる。以

東は151—160cmにみられる単モードである。以東は4月と全く逆の形であるが、以西は全く同形である。

（ビ　ン　ナ　ガ）

西部太平洋亜熱帯海区170°E以西は2月(2.60)から3,4,5月と著しく低下して5月は以東と共に全く釣れていない。体長組成は91—100cmにモードがあり、型は伊豆東方海区より大きく、南洋南部より稍小さい。4月の組成より型は大きく29年と同変化である。

（ク　ロ　マ　グ　ロ）

台灣東海は0.24で高く4月(0.07)より著しく上昇した。20°—30°N, 130°—140°Eの海区は0.14で、その東側は全く釣れていず、西よりに偏している。

（カ　ジ　キ　類）

クロカワの釣獲率は台灣東海、西部太平洋亜熱帯海区170°E以西共に4月から上昇し始め、此の附近に於いても北上している事を示している。

台湾東海のマカジキ、メカジキは西部太平洋亜熱帯海区の約半分の釣獲率を示しているが両魚種共4月より低下し29年と同變化である。20°—30°N, 130°—170°Eのマカジキは4月より更に上昇し、前号で記述したところの此の附近に形成された漁場がますます活況を呈している事を示している。メカジキは2,3,4月と上昇して4月0.30を示し高率から5月は0.16と激減した。上昇低下の現象は周期的であるがその激しさは29年より著しい。20°—30°N, 170°—180°Eはやはり前者は上昇、後者は低下しているがその変化の差は更に著しい。

メカジキが140°E以東に多い事は前述したが140°—150°E, 150°—160°Eに各2隻のメカ縄船がみられているので4月同様上記の傾向は考慮を要する。

メカジキの体長組成は伊豆東方海区と西部太平洋亜熱帯海区170°E以西は同形で、以東は著しく型が大きく、台湾東海は3モードから成り多少異にしている。

4　漁況の予報

ハワイ南西海区5°N以南のキハダの釣獲率は6,7月と高率を示すであろうが、3年間の春季(高率期)の率をみると減衰変化をしているので、或はたいして上昇しないかもしれない。何れにせよ8月頃には2.0附近にまで低下し11月頃まで低率を続けるものと思われる。南洋南部170°E以東の5°N以南も春から秋にかけて高率で冬季低率を示すであろう。又ソロモン海区北東部もサモア海区も同様秋季から冬季は低率を呈するであろう。

ハワイ南西海区5°N以北のメバチの釣獲率は6月に高率を示し7月以降低下し、秋

期1.0附近になつた後、晩冬にかけて上昇するであろう。

北部太平洋方面のビンナガが 9,10 月頃から 35°N 以北を西経漁場より西進回游をして來て周年みられるビンナガ漁場を形成し始めるであろう事は前号に記したが 35°N, 171°E 附近に新淺瀬が發見された（海鷹丸）ので、此の瀬と回游ビンナガの回游が注目され、近日相模丸が調査に向かう事になつているので成果が注目される

西部太平洋亜熱帶海區のマカジキは更に活況を呈し、7月頃から秋にかけて低下するであろう。

伊豆東方海區のメカジキは 6,7 月頃から本格的に上昇するものと思われる。

5 參考資料

第3榮丸は「昭和30年5月4日—6月2日の間 1°—4°S, 175°—171°W に於いて流向は W, SW にして潮目等はあまりみる事はない。キハダの魚体は大にして島に寄せるとメジ多く、今産卵期にある」と報告している。

第8順光丸は昭和30年5月14日—6月3日 1°—2°S, 164°—161°W に於いて、「東西に走る潮よりも南北に向かう潮が多く、キハダの好む小魚が多く集る様で、キハダはある一定の小範圍のみ釣れ、潮目、潮目に索餌回游をしるのではないかと思われる。又魚体は大きい。」と報告している。

鮪類標識放流について

1　昭和30年10月4日より11月14日までの間に放流実施の委託をなした船数は4（標識50本）である。

2　昭和30年10月4日より11月14日までの間に放流實施の報告のあつた船数は5．放流尾數は14である。

放流実施船名及び放流実施の概要

船　　名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚　　種（尾　數）
進　洋　丸	A0711—712	30．8.25 9．7	1°N　6°N 178°W,176°E	きはだ(2)
協　進　丸	A0716—720	30．8．5 —8.10	0°—1°S 67°—69°E	めばち(5)
1 さつま丸	A0742	30．9.26	25°S 154°E	きはだ(1)
11 明神丸	A0816—820	30.10.10 —10.13	8°—10°S 113°—114°E	きはだ(5)
愛知晴和丸	A0746—750 A0951	30．8.30 —9．5 30．9．1	6°—7°N 141°-142°W	きはだ(4) くろかわ(1) かつを(1)

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業區域	調査隻數	水温(°c)	流向流速	操業回數	漁具數	鈎數		ま きはだ	ま めばち
ハワイ南西 5°N 以北	3°—11°N 178°—168°W	3	25.9 27.8		58	21,853	99,965	尾數 釣獲率 百分率	548 0.55 14.3	2661 2.66 69.6
〃 5°N 以南	2°S—4°N 179°E-169°w	4	26.7 28.8		63	22,575	115,918		3668 3.16 63.6	866 0.75 15.0
計		7			121	44,428	215,883		4216 1.95 43.9	3527 1.63 36.8
0°—15°S 160°—140°W	1°—14°S 159°—143°W	1 (1)	26.6 27.8		48	18,800	77,040		2397 3.11 40.9	579 0.75 9.9
タ ヒ チ	14°—16°S 151°—147°E	1	28.1 29.7		15	6,230	31,150		508 1.63 28.7	72 0.23 4.1
サ モ ア	2°N—6°S 179°E-161°w	14	26.6 29.4		349	134,617	622,976		25195 4.04 66.0	2477 0.40 6.5
南洋北部 170°E 以東	9°—11°N 174°—180°E	2	26.8 27.6		41	14,680	74,500		131 0.18 4.9	1506 2.02 56.4
南洋南部 170°E 以西	2°S—10°N 130°—175°E	33	21.0 30.3		548	180,684	769,770		18183 2.36 59.9	5978 0.78 19.7
〃 170°E 以東	1°—11°N 169°—180°E	7	26.8 29.1		135	49,869	219,665		3707 1.69 42.4	2449 1.11 28.0
計		40			683	230,553	989,435		21890 2.21 56.0	8427 0.85 21.6
ソロモン	1°—7°S 169°E-179°w	5	27.0 29.0		94	34,430	163,750		6074 3.71 57.4	453 0.28 4.3
台灣東海	20°—25°N 124°—130°E	25	23.6 28.5		365	80,483	360,335		3124 0.87 41.4	186 0.05 2.5
フイリッピン東海	17°—23°N 127°—129°E	1	26.0 28.0		17	4,250	17,000		229 1.35 58.7	12 0.07 3.1
アンダマン ニコバル	3°—9°N 94°—95°E	1 (1)	28.2 29.0		27	10,935	46,796		2250 4.81 75.1	293 0.63 9.8
セイロン	1°—9°N 75°—96°E	5	27.8 30.0		113	43,918	182,342		11829 6.49 76.0	1905 1.04 12.2

May 1955

(昭和30年5月操業分)

(別表 1)

ぐ ろ (AL 137)			か じ き					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんどまぐろ	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
21			435	10	38	34	32		46		3825	サメ未調査隻数 3
0.02			0.44	0.01	0.04	0.03	0.02		0.05		3.83	
0.5			11.4	0.3	1.0	0.9	0.8		1.2		100	体長測定隻数 2
367			292	19	8	18	22	9	43	458	5770	
0.32			0.25	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.04	0.40	4.98	3
6.4			5.1	0.3	0.1	0.3	0.4	0.2	0.7	7.9	100	4
388			727	29	46	52	54	9	89	458	9595	
0.18			0.34	0.01	0.02	0.02	0.03	0.00	0.04	0.21	4.44	6
4.0			7.6	0.3	0.5	0.5	0.6	0.1	0.9	4.8	100	6
1947	3		504	7	5	12	6	248	148		5856	
2.53	0.00		0.65	0.01	0.01	0.02	0.01	0.32	0.19		7.60	(1)
33.3	0.1		8.6	0.1	0.1	0.2	0.1	4.2	2.5		100	1 1
744			415	13	14	1					1767	
2.39			1.33	0.04	0.04	0.00					5.67	1
42.1			23.5	0.7	0.8	0.1					100	0
7569			1689	135	67	127	132	125	150	490	38156	
1.21			0.27	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.08	6.12	12
19.8			4.4	0.4	0.2	0.3	0.3	0.3	0.4	1.3	100	10
15			619	8	1	6	13	7	123	242	2671	
0.02			0.83	0.01	0.00	0.01	0.02	0.01	0.17	0.32	3.59	1
0.6			23.2	0.3	0.0	0.2	0.5	0.3	4.6	9.1	100	2
540	4		3831	135	45	80	504	405	327	315	30347	
0.07	0.00		0.50	0.02	0.01	0.01	0.07	0.05	0.04	0.04	3.94	23
1.8	0.0		12.6	0.4	0.1	0.3	1.7	1.3	1.1	1.0	100	30
703			1174	32	67	30	16		568		8746	
0.32			0.53	0.01	0.03	0.01	0.01		0.26		3.98	7
8.0			13.4	0.4	0.8	0.3	0.2		6.5		100	6
1243	4		5005	167	112	110	520	405	895	315	39093	
0.13	0.00		0.51	0.02	0.01	0.01	0.05	0.04	0.09	0.03	3.95	30
3.2	0.0		12.8	0.4	0.3	0.3	1.3	1.0	2.3	0.8	100	36
2397	1		790	45	3	10	43	47	589	136	10588	
1.46	0.00		0.48	0.03	0.00	0.01	0.03	0.03	0.36	0.08	6.47	4
22.6	0.0		7.5	0.4	0.0	0.1	0.4	0.4	5.6	1.3	100	4
28	852		621	9	738	168	308		753	754	7541	
0.01	0.24		0.17	0.00	0.20	0.05	0.09		0.21	0.21	2.09	3
0.4	11.3		8.2	0.1	9.8	2.2	4.1		10.0	10.0	100	24
9	41		36		33	1	8			22	391	
0.05	0.24		0.21		0.19	0.01	0.05			0.13	2.30	0
2.3	10.5		9.2		8.4	0.3	2.0			5.6	100	0
14			247	110	51	8	24				2997	
0.03			0.53	0.24	0.11	0.02	0.05				6.40	1(1)
0.5			8.2	3.7	1.7	0.3	0.8				100	0
79			763	279	357	89	178		58	19	15556	
0.04			0.42	0.15	0.20	0.05	0.10		0.03	0.01	8.53	4
0.5			4.9	1.8	2.3	0.6	1.1		0.4	0.1	100	4

漁場	操業区域	調査隻数	水温(°c)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま きはだ	めばち
アラビヤ	1°S—3°N 58°—65°E	2	27.9 29.2		46	16,495	74,389	尾数 釣獲率 百分率	9526 12.81 80.2	1175 1.58 9.9
中部印度洋	0°—3°S 67°—78°E	3	28.3 29.6		51	21,117	91,785		8004 8.72 82.4	408 0.44 4.2
西部印度洋	1°N—4°S 57°—72°E	8	27.4 30.0		177	67,971	314,066		45868 14.60 85.9	1936 0.62 3.6
伊豆東方	30°—34°N 140°—148°E	8	19.2 23.7		116	14,045	92,428		64 0.07 3.8	28 0.03 1.7
南海々区	29°—33°N 136°—137°E	1	20.0 22.0		11	2,420	14,520		4 0.03 3.3	13 0.09 10.8
西部太平洋 170°E 以西	20°—31°N 130°—162°E	52	19.2 27.2		612	139,373	695,462		2063 0.30 16.2	601 0.09 4.7
〃 170°E 以東	26°—28°N 173°—176°E	1	23.1 24.9		19	6,080	30,400		6 0.02 0.8	643 2.12 80.5
計		53			638	145,553	725,862		2069 0.29 15.3	1244 0.17 9.2
計		176			2909	890,825	4,094,357		143378 3.50 63.9	24241 0.59 10.8

(別表 1)

まぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんどまぐろ	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
708			367	28	36	26	9				11875	サメ未調査隻数 2
0.95			0.49	0.04	0.05	0.03	0.01				15.96	
6.0			3.1	0.2	0.3	0.2	0.1				100	体長測定隻数 1
834			274	79	83	16	19				9717	3
0.91			0.30	0.09	0.09	0.02	0.02				10.59	2
8.6			2.8	0.8	0.9	0.2	0.2				100	
4291			610	174	206	125	140	6	5	6	53367	7
1.37			0.19	0.06	0.07	0.04	0.04	0.00	0.00	0.00	16.99	8
8.0			1.1	0.3	0.4	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	100	
60	28		10	2	438	332	8		54	649	1673	1
0.06	0.03		0.01	0.00	0.47	0.36	0.01		0.06	0.70	1.81	6
3.6	1.7		0.6	0.1	26.2	19.8	0.5		3.2	38.8	100	
3	22		4		29	14				31	120	0
0.02	0.15		0.03		0.20	0.10				0.21	0.83	0
2.5	18.3		3.3		24.2	11.7				25.8	100	
153	720		913	48	2673	927	194	123	589	3714	12718	4
0.02	0.10		0.13	0.01	0.38	0.13	0.03	0.02	0.08	0.53	1.83	52
1.2	5.7		7.2	0.4	21.0	7.3	1.5	1.0	4.6	29.2	100	
2			13		95	40					799	1
0.01			0.04		0.31	0.13					2.63	1
0.3			1.6		11.9	5.0					100	
155	720		926	48	2768	967	194	123	589	3714	13517	5
0.02	0.10		0.13	0.01	0.38	0.13	0.03	0.02	0.08	0.51	1.86	53
1.1	5.3		6.9	0.4	20.5	7.2	1.4	0.9	4.4	27.5	100	
20484	1671		13607	1233	4987	2064	1656	970	3454	6736	224480	80
0.50	0.04		0.33	0.03	0.12	0.05	0.04	0.02	0.08	0.16	5.48	157
9.1	0.7		6.1	0.5	2.2	0.9	0.7	0.4	1.5	3.0	100	

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和30年5月操業分）

（別 表 2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151 cm 以上	計	漁獲尾數
	2	ハワイ南西 5°N 以北	3°—11°N 178°—174°W	35	尾數 %					1 2.1	1 2.1	3 6.4	2 4.3	12 25.5	16 34.0	11 23.4	1 2.1	47 100	253
	4	〃 5°N 以南	2°S—4°N 180°—174°W	63							3 0.3	33 2.9	97 8.6	319 23.4	392 34.9	211 18.8	67 6.0	1122 100	3668
	1	0°—15°S 160°—140°W	1°—7°S 159°—144°W	40										7 2.7	124 48.2	92 35.8	34 13.2	257 100	2127
き	10	サ モ ア	2°N—6°S 180°—161°W	238					3 0.1	59 1.1	62 1.1	59 1.1	165 3.0	1534 28.3	1713 31.6	1256 23.2	564 10.4	5415 100	17317
	2	南洋北部 170°E 以東	9°—11°N 174°—180°E	41								1 2.0	19 38.8	12 24.5	12 24.5	4 8.2	1 2.0	49 100	131
	30	南洋南部 170°E 以西	0°—10°N 130°—172°E	468		5 0.1	27 0.3	71 0.8	191 2.0	319 3.4	1386 14.7	957 10.2	1483 15.7	3406 36.2	1326 14.1	218 2.3	32 0.3	9421 100	16882
	5	〃 170°E 以東	1°—11°N 169°—179°E	96		1 0.0	1 0.0	9 0.4	11 0.5	30 1.3	378 16.3	307 13.2	167 7.2	744 32.1	481 20.7	157 6.8	34 1.5	2320 100	3526
は	4	ソ ロ モ ン	1°—7°S 169°—179°E	73					4 0.3	46 3.9	89 7.5	26 2.2	127 10.7	439 37.0	278 23.5	137 11.6	39 3.3	1185 100	4164
	24	台 灣 東 海	20°—24°N 124°—130°E	352					9 0.3	99 3.4	382 13.3	141 4.9	115 4.0	1071 37.3	831 29.0	188 6.6	34 1.2	2870 100	3062
	4	セ イ ロ ン	1°—11°N 75°—96°E	98			1 0.0		23 0.7	82 2.5	19 0.6	15 0.5	150 4.6	701 21.6	1178 36.2	916 28.2	167 5.1	3252 100	10537
だ	2	ア ラ ビ ヤ	1°S—3°N 58°—65°E	46							8 0.9	2 0.2	8 0.9	156 17.0	543 59.3	187 20.4	11 1.2	915 100	9526
	2	中部印度洋	0°—3°S 67°—78°E	33				2 0.1	8 0.5	5 0.3	17 1.1	6 0.4	81 5.4	491 32.8	634 42.4	204 13.6	48 3.2	1496 100	5954
	8	西部印度洋	1°—4°S 56°—72°E	169					6 0.1	55 0.9	92 1.6	16 0.3	24 0.4	520 8.9	2456 41.8	1958 33.4	744 12.7	5871 100	44384
	5	伊 豆 東 方	30°—34°N 140°—142°E	70						6 10.5	4 7.0	3 5.3	6 10.5	15 26.3	17 29.8	3 5.3	3 5.3	57 100	59
	49	西部太平洋 170°E 以西	22°—30°N 130°—162°E	568			1 0.1	12 0.6	21 1.1	115 6.0	274 14.3	364 19.0	127 6.6	367 19.1	475 24.8	133 6.9	29 1.5	1918 100	2050

〃	〃	〃	〃	〃		80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	〃	〃
	2	ハワイ南西 5°N 以北	3°—11°N 178°—174°W	35	〃				9 2.0	63 13.9	47 10.4	77 17.0	69 15.2	62 13.7	66 14.6	38 8.4	22 4.9	453 100	1457
	3	〃 5°N 以南	2°S—4°N 180°—174°W	55		6 2.8			5 2.4	8 3.8	14 6.6	10 4.7	43 20.3	58 27.4	37 17.5	20 9.4	11 5.2	212 100	786
	1	0°—15°S 160°—140°W	1°—7°S 159°—144°W	40					10 8.4	13 10.9	13 10.9	16 13.4	18 15.1	21 17.6	22 18.5	5 4.2	1 0.8	119 100	514
め	10	サ モ ア	2°N—5°S 180°—161°E	238		7 1.0		1 0.1	44 6.2	103 14.6	83 11.8	112 15.9	166 23.5	109 15.4	56 7.9	14 2.0	11 1.6	706 100	1634
	2	南洋北部 170°E 以東	9°—11°N 174°—180°E	41				1 0.2	29 6.1	57 12.0	77 16.2	62 13.1	64 13.5	85 17.9	61 12.9	30 6.3	8 1.7	474 100	1506
	30	南洋南部 170°E 以西	2°S—11°N 130°—175°E	504		191 4.1	24 0.5	87 1.9	426 9.1	477 10.2	767 16.4	1152 24.7	974 20.9	390 8.4	144 3.1	31 0.7	5 0.1	4668 100	5484
ば	6	〃 170°E 以東	1°—11°N 172°—180°E	109		54 4.7	17 1.5	17 1.5	62 5.4	113 9.8	105 9.1	151 13.1	228 19.7	181 15.6	140 12.1	58 5.0	31 2.7	1157 100	2024
	4	ソ ロ モ ン	1°—7°S 169°—179°E	73				4 2.6	10 6.5	25 16.3	17 11.1	31 20.3	37 24.2	20 13.1	7 4.6		2 1.3	153 100	382
	23	台湾東海	21°—25N 124°—130°E	337		13 7.6		25 14.7	42 24.7	20 11.8	23 13.5	20 11.8	16 9.4	8 4.7	3 1.8			170 100	182
ち	4	セ イ ロ ン	1°—11°N 75°—96°E	98		16 1.4	46 3.9	21 1.8	64 5.5	130 11.1	224 19.1	313 26.7	182 15.5	118 10.1	53 4.5	4 0.3	1 0.1	1172 100	1650
	2	ア ラ ビ ヤ	1°S—3°N 58°—65°E	46				13 7.1	26 14.3	22 12.1	31 17.0	24 13.2	24 13.2	20 11.0	19 10.4	3 1.6		182 100	1175
	2	中部印度洋	0°—3°S 67°—78°E	33		1 0.5	3 1.6	7 3.7	32 17.0	35 18.6	53 28.2	23 12.2	13 6.9	12 6.4	8 4.3	1 0.5		188 100	266
	8	西部印度洋	0°—4°S 56°—72°E	169		19 3.3	28 4.9	40 6.9	100 17.3	74 12.8	68 11.8	54 9.4	68 11.8	72 12.5	50 8.7	4 0.7		577 100	1841

（別 表 2）

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數		80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181cm以上	計	漁獲尾數
めばち	3	伊豆東方	31°—34°N 140°—142°E	43	尾數			2	1			1	1	1	1			7	7
					%			28.6	14.3			14.3	14.3	14.3	14.3			100	
	47	西部太平洋 170°E 以西	22°—32°N 130°—162°E	541		65	2	17	96	42	62	54	62	38	12	2		452	572
						14.4	0.4	3.8	21.2	9.3	13.7	11.9	13.7	8.4	2.7	0.4		100	
	1	〃 170°E 以東	26°—28°N 173°—176°E	19			1		4		6	10	43	73	71	10		218	643
							0.5		1.8		2.8	4.6	19.7	33.5	32.6	4.6		100	
〃	〃	〃	〃	〃		40cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121cm以上			〃	〃
びんなが	1	ハワイ南西 5°N 以南	1°S—4°N 176°—174°W	18	〃							3	1					4	8
												75.0	25.0					100	
	6	サモア	2°N—6°S 180°—161°W	145					2		72	172	20					266	2204
									0.8		27.1	64.7	7.5					100	
	18	南洋南部 170°E 以西	2°S—10°N 140°—164°E	313							22	244	95					361	444
											6.1	67.6	26.3					100	
	3	〃 170°E 以東	2°—9°N 172°—179°E	55						1	102	179	115	6				403	690
										0.2	25.3	44.4	28.5	1.5				100	
	3	ソロモン	2°—7°S 169°—176°E	49							83	104	25	3				215	1165
											38.6	48.4	11.6	1.4				100	
	6	台灣東海	20°—23°N 124°—130°E	74								2	13	1				16	16
												12.5	81.3	6.3				100	
	1	セイロン	1°—8°N 78°—95°E	23							1	57	7					65	65
											1.5	87.7	10.8					100	
	1	中部印度洋	0°—3°S 68°—78°E	15							1	30	48	14				93	154
											1.1	32.3	51.6	15.1				100	
	5	西部印度洋	0°—3°S 56°—72°E	108						2	2	45	123	26	6			204	2685
										1.0	1.0	22.1	60.3	12.7	2.9			100	
	2	伊豆東方	31°—33°N 140°—142°E	27						11	11	1						23	23
										47.8	47.8	4.3						100	

	24	西部太平洋 170°E 以西	22°—31°N 128°—142°E	270				1 0.9		7 6.2	31 27.7	45 40.2	23 20.5	5 4.5				112 100	129
	1	〃 170°E 以東	26°—28°N 172°—176°E	19											1 100.0			1 100	2
〃	〃	〃	〃	〃		120 cm 以下	121 — 130	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 — 210	211 — 220	221 cm 以上	〃	〃
くろまぐろ	1	ソロモン	3°—7°S 169°—176°E	14	〃									1 100.0				1 100	1
	22	台灣東海	20°—24°N 124°—130°E	320		9 1.3			6 0.9	8 1.2	8 1.2	18 2.7	115 16.9	303 44.6	146 21.5	56 8.2	10 1.5	679 100	370
	5	伊豆東方	31°—34°N 140°—142°E	67		1 5.6					1 5.6	3 16.7	5 27.8	3 16.7	3 16.7	2 11.1		18 100	18
	46	西部太平洋 170°E 以西	22°—31°N 128°—150°E	520		1 0.2		1 0.2	2 0.3	5 0.8	5 0.8	89 14.7	169 27.9	209 34.5	95 15.7	26 4.3	3 0.5	605 100	718
〃	〃	〃	〃	〃		140 cm 以下	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 — 210	211 — 220	221 — 230	231 — 260	261 cm 以上	〃	〃
くろかわ	2	ハワイ南西 5°N 以北	3°—11°N 178°—174°W	35	〃			4 5.6	16 22.2	17 23.6	15 20.8	3 4.2	6 8.3	4 5.6	5 6.9	1 1.4	1 1.4	72 100	317
	3	〃 5°N 以南	2°S—4°N 180°—174°W	55		7 5.2	6 4.4	12 8.9	30 22.2	33 24.4	16 11.9	11 8.1	4 3.0	3 2.2	6 4.4	6 4.4	1 0.7	135 100	277
	1	0°—15°S 160°—140°W	1°—7°S 159°—144°W	40			2 4.8		8 19.0	9 21.4	8 19.0	2 4.8	1 2.4	1 2.4	2 4.8	4 9.5	5 11.9	42 100	371
	10	サモア	2°N—6°S 179°E-161°W	238		37 5.9	42 6.7	67 10.7	139 22.1	130 20.7	60 9.5	46 7.3	25 4.0	20 3.2	22 3.5	28 4.5	13 2.1	629 100	1149
	2	南洋北部	9°—11°N 174°—180°E	41			3 1.4	25 12.0	49 23.6	64 30.8	29 13.9	12 5.8	9 4.3	3 1.4	8 3.8	6 2.9		208 100	619

(別表 2)

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		140 cm 以下	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 — 210	211 — 220	221 — 230	231 — 260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
	30	南洋南部 170°E 以西	0°—11°N 130°—175°E	504	尾數 %	259 9.2	426 15.1	787 28.0	533 18.9	243 8.6	131 4.7	119 4.2	125 4.4	83 2.9	61 2.2	36 1.3	11 0.4	2814 100	3392
く	5	〃 170°E 以東	1°—11°N 169°—179°E	96		43 7.7	48 8.6	113 20.3	89 15.9	111 19.9	47 8.4	21 3.8	19 3.4	27 4.8	23 4.1	14 2.5	3 0.5	558 100	785
	4	ソロモン	1°—7°S 169°—179°E	73		15 8.5	13 7.4	27 15.3	42 23.9	27 15.3	17 9.7	10 5.7	4 2.3	5 2.8	5 2.8	9 5.1	2 1.1	176 100	609
	21	台灣東海	20°—25°N 124°—130°E	310		5 1.0	80 15.7	152 29.9	93 18.3	47 9.2	17 3.3	21 4.1	30 5.9	21 4.1	23 4.5	18 3.5	2 0.4	509 100	524
ろ	4	セイロン	1°—11°N 75°—96°E	98		2 0.4	3 0.6	14 2.9	47 9.7	106 21.8	112 23.0	42 8.6	34 7.0	46 9.5	37 7.6	38 7.8	5 1.0	486 100	672
	2	アラビヤ	1°S—3°N 58°—65°E	46				3 2.7	17 15.0	27 23.9	39 34.5	14 12.4	2 1.8	4 3.5	2 1.8	5 4.4		113 100	367
か	2	中部印度洋	0°—3°S 67°—78°E	33		1 0.5	1 0.5	9 4.1	44 19.8	48 21.6	33 14.9	15 6.8	14 6.3	19 8.6	22 9.9	14 6.3	2 0.9	222 100	325
	8	西部印度洋	0°—4°S 56°—72°E	169		1 0.5	2 1.0	13 6.2	32 15.4	54 26.0	49 23.6	21 10.1	10 4.8	6 2.9	6 2.9	12 5.8	2 1.0	208 100	593
わ	4	伊豆東方	31°—34°N 140°—142°E	53							1 12.5	2 25.0	3 37.5	1 12.5	1 12.5			8 100	8
	40	西部太平洋 170°E 以西	20°—31°N 130°—162°E	470		31 3.9	73 9.1	186 23.2	186 23.2	87 10.8	37 4.6	45 5.6	36 4.5	52 6.5	37 4.6	28 3.5	5 0.6	803 100	887
	1	〃 170°E 以東	26°—28°N 173°—176°E	19									1 12.5	2 25.0	2 25.0	3 37.5		8 100	13
	1	ハワイ南西 5°N 以北	10°—11°N 176°—174°W	14												1 100.0		1 100	5
	3	〃 5°N 以南	2°S—4°N, 180°—174°W	55			1 14.3	2 28.6	1 14.3	2 28.6				1 14.3				7 100	18
	1	0°—15°S 160°—140°W	1°—9°S 159°—144°W	40					1 10.0			1 10.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0		10 100	11
し	10	サモア	2°N—6°S 179°E-161°W	238		3 7.5	2 5.0	9 22.5	3 7.5	3 7.5	3 7.5	1 2.5	1 2.5	2 5.0	2 5.0	4 10.0	7 17.5	40 100	89

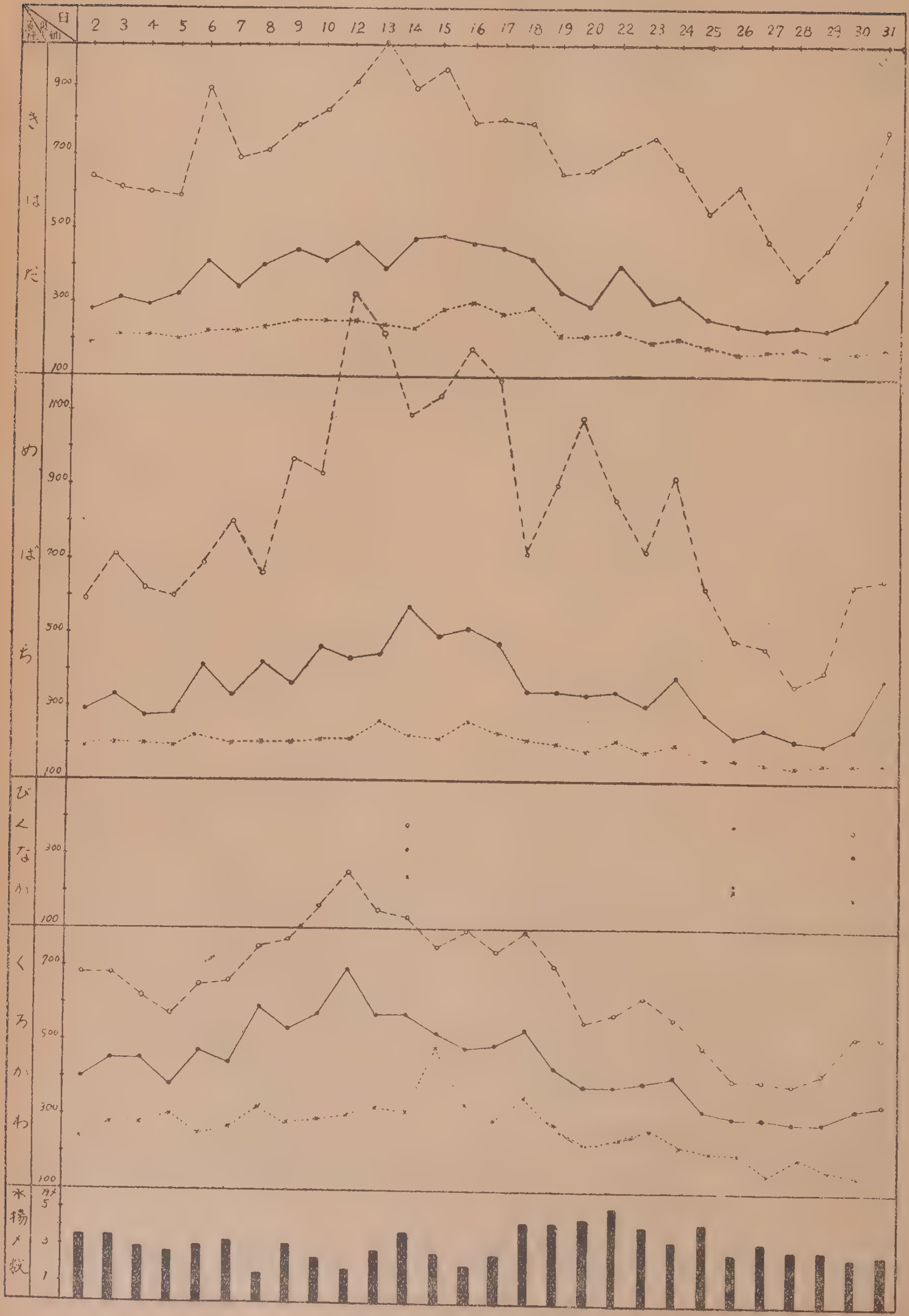
	1	南洋北部 170°E 以東	10°—11°N 175°—177°E	18		1 33.3	1 33.3	1 33.3									3 100	6
ろ	23	南洋南部 170°E 以西	0°—9°N 130°—169°E	378	16 14.8	16 14.8	19 17.6	19 17.6	12 11.1	8 7.4	6 5.6	2 1.9	4 3.7		3 2.8	3 2.8	108 100	125
	5	〃 170°E 以東	1°—11°N 172°—179°E	96	1 5.3	1 5.3	1 5.3	2 10.5	4 21.1	4 21.1	4 21.1		1 5.3	1 5.3			19 100	22
	4	ソロモン	1°—7°S 169°—179°E	73		1 5.9	2 11.8	2 11.8	1 5.9	3 17.6	2 11.8	1 5.9	2 11.8	1 5.9	1 5.9	1 5.9	17 100	37
か	5	台灣東海	21°—23°N 124°—130°E	77		1 20.0			2 40.0			1 20.0				1 20.0	5 100	5
	4	セイロン	1°—11°N 75°—95°E	98	5 2.6	4 2.1	4 2.1	20 10.4	19 9.8	27 14.0	32 16.6	31 16.1	23 11.9	8 4.1	18 9.3	2 1.0	193 100	252
わ	1	アラビヤ	0°—3°S 58°—65°E	22						2 28.6			3 42.9	1 14.3		1 14.3	7 100	20
	2	中部印度洋	0°—3°S 67°—78°E	33	4 4.9	6 7.4	3 3.7	9 11.1	7 8.6	10 12.3	12 14.8	8 9.9	7 8.6	4 4.9	8 9.9	3 3.9	81 100	109
	6	西部印度洋	0°—4°S 56°—72°E	126	1 1.4	2 2.8	2 2.8	5 7.0	3 4.2	10 14.1	11 15.5	11 15.5	6 8.5	7 9.9	13 18.3		71 100	139
	1	伊豆東方	31°—32°N 140°—141°E	11				1 50.0								1 50.0	2 100	2
	15	西部太平洋 170°E 以西	20°—30°N 128°—145°E	176	13 38.2	3 8.8	4 11.8	4 11.8	5 14.7	2 5.9	2 5.9	1 2.9					34 100	35
まかじき	〃	〃	〃	〃	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	〃	〃
	2	ハワイ南西 5°N 以南	1°S—4°N 180°—174°W	34	1 50.0										1 50.0		2 100	7

（別 表 2）

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數		100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾數
まかじき	6	サモア	2°N-6°S 179°E-161°W	142	尾数 %	10 27.8	8 22.2							1 2.8	2 5.6	11 30.6	4 11.2	36 100	38
	1	南洋北部 170°E 以東	9°—11°N 174°—180°E	23									1 100.0					1 100	1
	6	南洋南部 170°E 以西	2°—10°N 146°—169°E	103			5 50.0	1 10.0					1 10.0	2 20.0	1 10.0			10 100	10
	3	〃 170°E 以東	1°—9°N 169°—179°E	54		36 59.0	17 27.9	3 4.9	3 4.9					2 3.3				61 100	61
	1	台灣東海	22°—23°N 124°—125°E	337		2 0.3	42 6.3	64 9.6	14 2.1	26 3.9	111 16.7	242 36.4	98 14.7	42 6.3	15 2.3	4 0.6	5 0.8	665 100	699
	4	セイロン	1°—11°N 75°—96°E	98							1 0.5	10 4.5	39 17.6	86 38.7	69 31.1	15 6.8	2 0.9	222 100	314
	2	アラビヤ	1°S—3°N 58°—65°E	46							1 4.3	2 8.7	1 4.3	8 34.8	6 26.1	5 21.7		23 100	36
	2	中部印度洋	0°—3°S 67°—78°E	33							1 1.6	5 8.1	19 30.6	21 33.9	14 22.6	2 3.2		62 100	94
	8	西部印度洋	0°—4°S 56°—71°E	169							2 2.9	8 11.4	14 20.0	24 34.3	16 22.9	5 7.1	1 1.4	70 100	194
	6	伊豆東方	30°—34°N 140°—142°E	81			1 0.3	11 2.9	35 9.1	36 9.4	33 8.6	87 22.7	110 28.7	47 12.3	19 5.0	4 1.0		383 100	387
	52	西部太平洋 170°E 以西	20°—31°N 130°—162°E	612		3 0.1	63 2.4	356 13.7	336 13.0	185 7.1	299 11.5	613 23.7	475 18.3	187 7.2	58 2.2	10 0.4	5 0.2	2590 100	2675
	1	〃 170°E 以東	26°—28°N 173°—176°E	19				1 1.3	22 28.2	26 33.3	2 2.6	3 3.8	5 6.4	7 9.0	6 7.7	5 6.4	1 1.3	78 100	95
め	1	ハワイ南西 5°N 以南	1°S—4°N 176°E-174°W	18		2 66.7						1 33.3						3 100	3
	2	サモア	2°N—3°S 179°E-170°W	37		3 25.0		2 16.7		2 16.7			2 16.7			3 25.0		12 100	17
	23	南洋南部 170°E 以西	2°S-10°N 130°—169°E	368		20 30.3	3 4.5	5 7.6	12 18.2	8 12.1	4 6.1	7 10.6	4 6.1	2 3.0		1 1.5		66 100	71

	4	〃 170°E 以東	1°—9°N 169°—179°E	73		10 47.7	1 4.8		1 4.8	1 4.8	4 19.0	2 9.5			1 4.8		1 4.8	21 100	21
か	24	台灣東海	21°—24°N 124°—130°E	352		33 22.0	21 14.0	19 12.7	17 11.3	14 9.3	17 11.3	12 8.0	12 8.0	2 1.3	2 1.3	1 0.7		150 100	164
	4	セイロン	1°—11°N 75°—96°E	98		5 8.6	3 5.2	7 12.1	10 17.2	4 6.9	7 12.1	6 10.3	6 10.3	7 12.1	1 1.7	2 3.4		58 100	68
じ	1	中部印度洋	0°—3°S 68°—78°E	15			2 22.2		2 22.2		1 11.1	2 22.2	1 11.1	1 11.1				9 100	9
	6	西部印度洋	0°—4°S 56°—72°E	127		2 7.4	5 18.5	7 25.9	7 25.9	1 3.7	1 3.7	3 11.1				1 3.7		27 100	107
き	6	伊豆東方	30°—34°N 140°—142°E	81		1 3.8	6 23.1		2 7.7	6 23.1	4 15.4	2 7.7	3 11.5	2 7.7				26 100	37
	49	西部太平洋 170°E 以西	20°—31°N 130°—162°E	589		89 10.1	90 10.3	87 9.9	97 11.0	128 14.6	110 12.5	112 12.8	52 5.9	49 5.6	30 3.4	15 1.7	19 2.2	878 100	918
	1	〃 170°E 以東	26°—28°N 173°—176°E	19					1 3.6	2 7.1	2 7.1	4 14.3	3 10.7	4 14.3	1 3.6	5 17.9	6 21.4	28 100	40

鮪類水揚價格表(三崎)30年10月



標識メカジキの再捕について

神奈川県水試 調査部　野 村 俊 造

会誌鮪漁業第23号（先月号）に報告された様に昭和30年8月13日6°2′N, 176°14′Wに於て第6光榮丸が標識メカジキを再捕した。之は30年8月10日に富山丸が6°00′N 177°50′Wで放流した体長 120cmのメカジキであるが第6光榮丸が再捕したときはさめの胃中より發見されたものである。

放流してから再捕されるまでの日数は4日でその移動距離は東方に約100浬となつているがいつ鮫に食はれたか不明なので之を以て直にこのメカジキの移動距離とは見なされない。

然しこの標識メカジキの發見は我々が29年3月に鮪標識放流試験を実施しその間約72隻の漁船によつて放流された310尾の標識鮪の再捕第1号として極めて有意義である。

米国で実施している鮪標識放流の結果は再捕率は約1%となつているが我々の結果は0.3%にすぎない。この相違は恐らく米国では

(1) 放流が集約的に行はれること。
(2) 標識魚は主として竿釣巻網等によつて漁獲されたもので生きがよいこと。
(3) 標識は魚体背部に貫通して取つけ脱落の恐れが少いこと。（31頁寫眞參照）
(4) 標識は主として専門の技術者によつて実施され且標識取付台の使用により魚体の損傷が少い。（30頁寫眞參照）

日本の場合は標識魚は何れも鮪延縄の漁獲物で甲板に上げた時に既にかなり弱つているものと思はれる。

特に標識の取りつけ方法が尾柄部に輪状に巻いているだけなので脱落の恐れが多いことが主たる原因と思はれる。

この点については今後改良したいと考へているが要は各漁船の協力により出來るだけ放流尾数を増加することによつて所期の目的を達成し得るものと確信している。

標識カツオ（5封度約600匁）189封度（約22貫800匁）のキハダマグロの胃中より發見

フイシエリー，プロダクト，レポート
1955.9.26号より（神奈川県水試漁撈部譯）

アメリカでは調査船による鮪の標識放流が盛んに行はれている

八月二十四日重さ189ポンド（約22貫8）のキハダをヒロ．フラッグラインの船イレネ．シー号が漁獲したこれだけでは特筆すべき魚の話題とはならないがこの時その切開いた胃中より白色のプラスチック製の標識を背中につけた5ポンドのカツオが発見された、この標識は二日前、即ち八月二十二日に米国魚類野生生物局の調査船チヤールズ．エッチ．ギルバート号で技師達の手でとりつけられたものである。そしてこの魚はハワイ沖の余り安樂でもない生活を送るために戻つてきたものである。

太平洋水研で放流された標識カツオで他に再捕されたものは全て漁業者の協力を得たもの計りである。即ち今度が生物學者が魚の助けを得て再捕出來た初めての例である。太平洋水研の所長の言によればこの一寸珍しい再捕は昨年中に標識をつけて放流された1724尾のカツオの中から8番目に得られたものださうである。他の7尾は皆竿釣をしている小舟から得ている。ヒロからの標識はヒロにある州の魚類狩猟局長の好意により送られたものである。他の三つの標識の再捕は先週ワイアナエのマクア沖オ

アメリカで行はれる鮪の標識は背鰭の後端下の背部を通して寫眞の様につけられる

アウの風下側で操業中の小舟ホロフアハナ号によるものである。ヒロの魚は明らかに大きなキハダに巻きこまれて前にも後にもそんなに大きな移動はしていない様である。というのはその捕獲者が初めに標識をとりつけた場所と非常に近くで得ているからである。

ワイアナエ沖で再捕された標識カツオも3週間から5週間後にとられたものであるが同じ様に初めに放流されたバーバー岬沖の海面からみるべき移動をしていない。これ等の中の一尾は5週間で岸沿いにカフクまで昇り又戻つてきている。このことについては同一魚群からとつたもう一尾のカツオがバーバー岬で標識をつけたにから5日目にカフク沖で再捕されたことから推量されうる。この様な動きを推量する爲にはカツオ魚群がいつまでも同じ群体を形成していることを仮定とする必要があるし、又この点については少しは知られていることである。

ハワイ海区で太平洋水産研究所がカツオの標識放流を行なつている目的はこれ等の小さなマグロ類の成長度と季節回游を知る爲である。カツオはハワイでは最も大切な水産資源であり州の只一の魚類罐詰業を維持しているけれども、この漁業が只夏期にだけ限られており島のすぐ近くの狭い漁場にしかいない。標識魚の再捕の研究から得られたカツオ魚群の動きについての情報は遂にはハワイの小舟達にとつて新漁場えの進出となり、又漁期の延長となすこともできるであろう。

標識カツオの再捕は今までにはその数は少いがこの計画に當つている水産生物學者達を非常に元氣づけている。彼等はカツオに用いた方法が能率的であり、そして又是等の活潑で興奮しやすく容易に傷つく魚が標識をとりつけるために、取扱いやすい許りでなく背中の皮膚や筋肉を通したプラスチックのチューブを結ぶために生ずる傷から速に回復するということを强調している。又ハワイのカツオ漁業が非常に集中的であり又漁業者達が協調するに充分であるということを物語つており相當量の標識マグロの再捕が期待されていることを示している。

以上

本会の図書誌の分譲其他について

◎本会發行の圖書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。漁場天氣圖は本会にて研究の上編集制定したものでありますから同方面の漁場へ出漁する漁船は是非御利用下さい。

会　　誌【鮪漁業】第6—24号　　各100円　　郵送料　16円

鮪類水揚地調査報告（自昭和27年5月　至昭和28年4月）
　　1　部　300円　（B5判150頁）　　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和28年5月　至昭和29年3月）
　　1　部　400円　（B5判226頁）　　郵送料　40円

漁場天氣圖（東部印度洋、 西部太平洋 25°N—25°S 80°E—150°E）昭和29年8月版
　　1　部　250円　（B3判50枚綴）　　郵送料　48円

鮪漁船操業圖（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
　　1　枚　50円　　郵送料　8円

鮪　漁　場　圖（32海区劃に表示したもの）
　　10　枚　100円　　郵送料　16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞を御願いします。

◎本會に入會を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費1000円（他に會誌送料200円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本會伊藤事務理事迄御申込下さい。

鮪漁船必携の教書とも云ふべき昭和29年度鮪類水揚地調査報告（B5判226頁）が出來上りましたから御希望の方は代金440円（送料40円を含む）を添えて本会宛御申込下さい。

鮪　漁　業
定價100円・送料16圓
（1955年10月号）

昭和30年10月25日印刷
昭和30年10月25日發行
監　　集　神奈川縣水産試験場調査部
編集兼發行人　菅　野　　進
神奈川縣三浦市　神奈川県水産試験場内
發行所　鮪漁業研究会

營業種目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

冷凍・冷藏・製氷工場
急速・空氣凍結製置
冷房製置・冷凍機械器具
防熱裝置・船舶冷凍冷藏

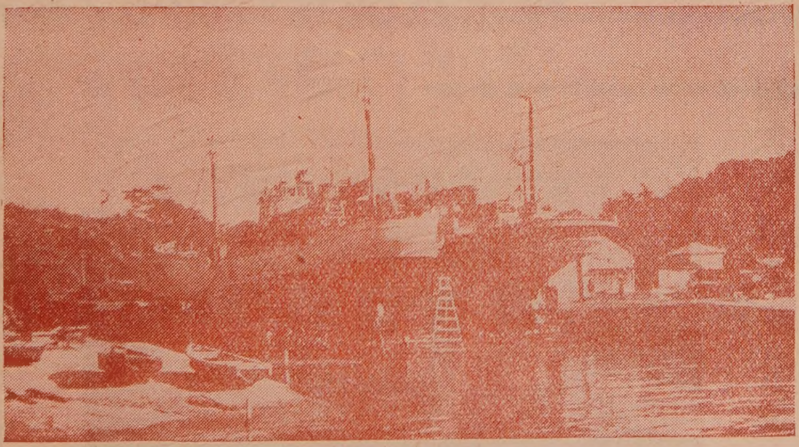
設計
製作
施工

協同低温工業株式会社

本社 東京都千代田區神田佐久間町河岸58号（夏目ビル二階）
電話下谷(83) 0996番

鋼木船造修一般

四百屯船台二基



五百屯船台一基

三崎船舶工業株式会社

神奈川縣三浦市三崎港（電話 三浦 343 番）

▷ 最高の技術 ══ 永い信用 ◁

営業種目

- VHF新聞通信社用
- ビーコン装置
- 超短波通信機
- 極超短波通信機
- 高級無線用測定器
- 放送施設一式
- 船舶用無線機
- ラジオヒーター
- 高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長 町田辰次郎

本社・工場	東京都北多摩郡狛江町和泉150	電話 砧(41)(代)7171—9番 電話 武蔵調布 472番
東京営業所	東京都港區芝西久保櫻川町 9	電話 芝(43)代表7373—9番
大阪出張所	大阪市北區中之島2の25(江商ビル508号室)	電話 北浜(23)4553番
福岡出張所	福岡市天神町55(伊藤ビル)	電話 中(4)2589番

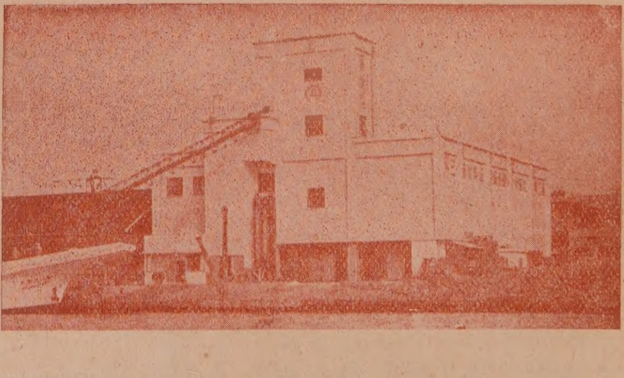
漁船の氷，餌料の仕込は

砕氷設備毎時50屯2基完備

(向ケ崎・花暮岸壁)

凍結能力 日産一七屯

冷蔵収容量 六〇〇屯



製氷能力 日産五〇瓲

貯氷能力 五五〇瓲

三崎漁業協同組合連合会 (製氷冷凍工場)

会長 寺本正市

(神奈川県三浦郡三崎港 TEL三崎609・655番)

倉敷ビニロン **クレモナ** 万漁

鮪延縄　ロープ　漁網

クレモナ延縄により操業中の江の島丸

くさらない

使いやすい

値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2（第一命生ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

新工場落成量産開始

太洋無線が全世界に誇る

船舶用
航空機用　各種 **自動方向探知機**
陸上用

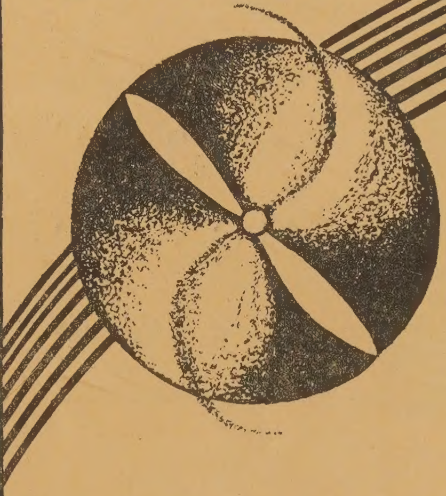
太洋無線株式会社

東京都澁谷區衆樂町48番地
電話澁谷(46)代表　5283—9番

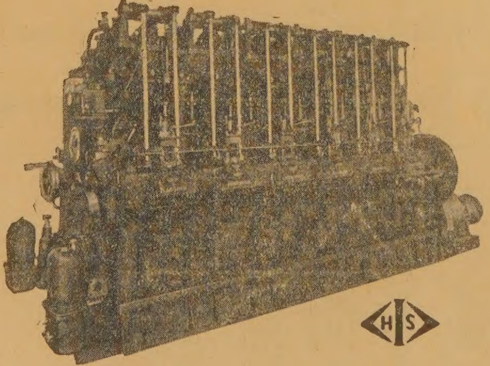
光電の方探

全方向自動直視式

7つの特許が生んだ
世界的製品



株式會社 光電製作所
東京都上大崎長者丸284の1
電話大崎(49)3265.5335.7438.7981



阪神 T6 Z900HP（鮪漁船第12住吉丸主機圖）

ハンシン デイーゼル

陸舶用デイーゼル
50 HP — 1200 HP

阪神内燃機工業株式会社

本　　社	神戸市長田区一番地1丁目	電話 湊川(5)1531—6
東京支店	東京都千代田區丸ノ内・丸ビル60区	電話和田倉(20)3640—1
下関出張所	下関市豊前田町・第一ビル内	電話 下関　768